

環境アセスメント学会 生態系研究部会 第36回定例会 報告

- テーマ：フクロウの HSI モデルとその適用
- 話題提供者：株式会社 総合技術コンサルタント 芦 朋也 氏
- コーディネータ：株式会社オオバ 田中 亨 氏
- 日時：令和4年3月18日（金）17:30~19:00
- 場所：WEB 開催
- 概要：

環境アセスメント学会生態系研究部会では、2020年10月より環境アセスメントの生物多様性分野の定量評価の促進を支援する新たな取り組みとして、学会誌及び学会ウェブサイトでの HSI モデル（HEP で用いるハビタット適正指数モデル）の紹介を開始した。これは、今後の環境アセスメントや HEP（ハビタット評価手続き）におけるハビタット保全を有効に促進することを目的に、学会へ投稿いただいた HSI モデルについて、生態系研究部会の審査を経て学会誌および学会ウェブサイトにて「生態系研究部会審査付き」として広く公開するものである。本定例会では、上記取り組みの第1号である「フクロウ HSI モデル」について、作成者の芦朋也様（株式会社総合技術コンサルタント）より、HSI モデルの内容と仮想事業での HSI モデルの HEP 評価への活用例についてご紹介いただいた。

定例会では、芦氏より、①フクロウの HSI モデル構築の経緯、②フクロウの HSI モデルの内容、③仮想事業での HSI モデルの HEP 評価への活用例についてご説明頂いた。今回作成した HSI モデルは、主に既存文献の掲載情報と専門家ヒアリングにより作成されたものであること、活用事例としては、手法は道路事業を取り上げ、道路及び周辺部の植生の広がりからハビタットの適正度を評価するとともに、道路事業建設による影響を評価したとのことであった。また、ハビタット適正度の評価では、下層植生の維持管理、遮音壁の設置、代替巢の設置など環境保全措置による影響評価についても実施し、環境影響評価及び環境保全措置検討における HSI モデルの有効性が確認された。そのほか、同じ道路事業・エリアに対し、技術ガイド及び HSI モデルの2つの評価手法を試行し、それぞれの評価結果や有効性を確認した。また、学会に投稿されたフクロウの HSI モデルの論文についてもご説明頂いた。

ご講演後のディスカッションでは、定例会参加者より、HSI モデルの評価結果は THU の値なのか、HSI モデルのハビタット指数はどのように方法で設定すべきなのか、技術ガイドと HSI モデルの評価結果の違いはどのようなものか、HSI モデルの評価では対象種の生息範囲・行動圏に沿った評価スケールの設定が重要、騒音レベルは LEQ となっているが他の手法を使わなかった理由はなにか、HSI モデルの評価を通じて具体的な保全活動を提案した事例はあるか、といった活発な質問や意見が出された。

HSI モデルは環境アセスメントの生物多様性分野の定量評価を促進するための有効なツールである。当学会誌において、HSI モデルを利用した建設事業の影響評価に関する事例は多数掲載されてきたが、アセスでの事例よりもケーススタディとしての検討事例が多い。今後は実際の環境影響評価での活用が期待されるほか、代償ミティゲーション、建設工法、構造物のデザイン等、環境保全措置における幅広い活用も期待される。当研究会において、HSI モデルの活用の幅を広げる活動を進めていければと思う。